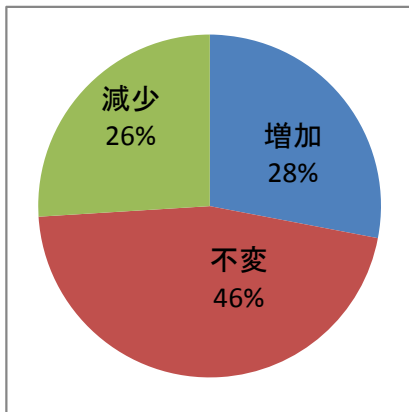


■ データから見た業界の動き

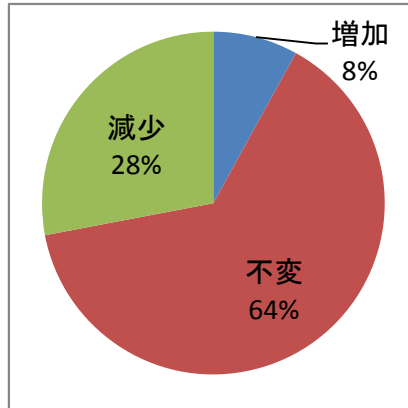
(平成25年5月分)

● 2012 / 5

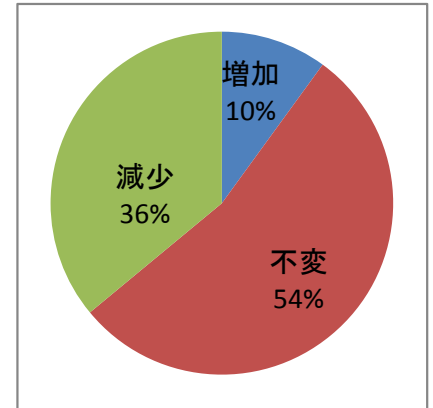
売上高(前年同月比)



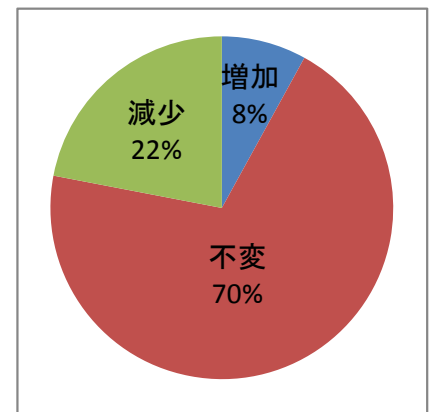
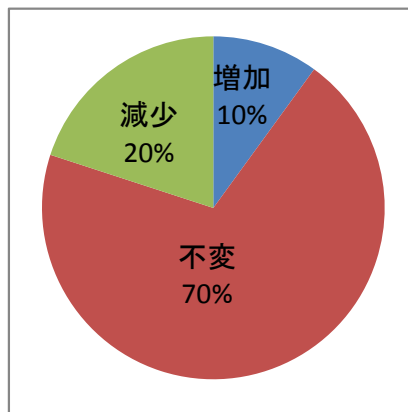
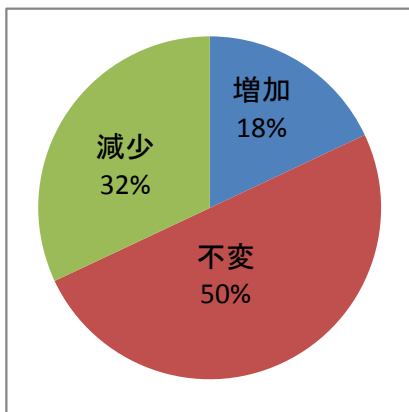
収益状況(前年同月比)



景況感(前年同月比)



● 2013 / 5



■ 対前年同月比及び前月比景気動向DI値(好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2012/5	2013/4	2013/5	2012/5	2013/4	2013/5	2012/5	2013/4	2013/5
売上高	0	-10	-20	3	-20	-10	2	-16	-14
収益状況	-35	-20	0	-10	-17	-17	-20	-18	-10
景況感	-20	-10	-15	-30	-13	-13	-26	-12	-14

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

■ 概 況

本県の5月の景況は、全業種のD I値が、売上高-14（前年同月比-16）、収益状況-10（前年同月比+10）、景況感-14（前年同月比+12）となっている。業種別のD I値では製造業で、売上高-20（前年同月比-20）、収益状況は±0（前年同月比+35）、景況感-15（前年同月比+5）。非製造業で、売上高-10（前年同月比-13）、収益状況-17（前年同月比-7）、景況感-13（前年同月比+17）となった。

全体の前年同月比では、収益状況は10ポイント、景況感は12ポイントと大きく改善したが売上高で16ポイントD I値が悪化した。

前月比では、製造業の売上高は10ポイント、景況感は5ポイント悪化した。収益状況は20ポイントと大きく改善している。非製造業では、売上高は10ポイント改善したが収益状況、景況感は不変であった。

情報連絡員による県内の5月の業況報告は、緊急経済対策による公共投資の執行が本格化し、経営環境の好転を背景とした消費マインドの改善が期待されている。

また、消費税率引き上げを控えた住宅投資など耐久財の駆け込み需要や円安にともなう輸出の効果がしだいに現れている。

しかし、円安による原料や燃料費の値上げ分を販売価格に転嫁できず企業収益の圧迫が懸念される報告も多く見られた。

製造業では、アベノミクス効果による景気回復の兆しはあるものの「空洞化により中小企業は全般的に仕事量の不足で先行きが見えない。」といった声もあり中小企業への効果の波及が遅れているとの報告もあった。

非製造業では、高額商品の売上増や雇用が改善傾向にあるとの報告、富士山の世界文化遺産登録予定の話題から観光客の増加など景気回復への兆しが見受けられる。しかし、コスト増による収益悪化の報告も製造業と同様に多く見られた。

アベノミクス効果への期待が高いだけに県内の中小・零細企業への波及効果が待たれる。

■ 業界の声

情報連絡員には、景気動向の変化、現状とその背景などについて、業界または組合全体の動向・予測(売上高・原材料等経費・資金繰りなど)についてコメントを求めた。

● 製造業

食料品（水産物加工）	自社製品のギフトや土産品は低調。伊勢エビや鮑等の生鮮の取扱いが好調のため前年同月比125%。しかし、中元用商品の原料が高騰しているため先行不透明である。
食料品（洋菓子製造）	OEM、自社製品とも好調。特に、輸出は環境好転から前年同月対比256%、遊園地向け商品も227%と伸長した。全体では、前年同月比119%。今後、小麦粉の値上がりが収支に悪影響を及ぼすと懸念する。
食料品（菓子）	原料の多くを輸入に頼っているため、原料高と円安によるコスト増は避けられない。また、販売価格にも転嫁できないため内容量の減少や新商品を中心に原材料の種類、配合の見直しを検討する組合員もいる。来春には、消費税増税も控えているため、メーカーとの小売価格の商談は厳しさを増している。
食料品（ワイン）	去年は原料となる葡萄が上質だったため、各社とも多めの仕込みを行った。そのため今年の景気次第では、売上(出荷量)が伸びないと仕込みタンクが空かず、今年の仕込み量が確保できない。
一般機器	売上は減っているが、新たな生産システムの開発に取り組んでおり今後に期待している。
電気機器	景気上昇の気運が高まる中で大企業の業績は円安株高で格段に良くなっているが、大企業の生産拠点が海外へ移ってしまった今日、円安になっても国内の空洞化により中小企業は全般的に仕事量の不足で先行きが見えない。
その他(貴金属①)	地金や素材であるダイヤ等が高騰しており利益確保が難しくアベノミクス効果は感じられない。
その他(貴金属②)	小売は回復傾向にあるようだが、製造分野は厳しい状況が続いている。

● 非製造業

卸売（ジュエリー）	4・5月の宝飾展の売上は前年を上回った。業況は、若干上向き傾向にある。また、5月の雇用調査においても1社あたり平均1.8人増である。
小売（青果）	気候の上昇に伴い青果物の入荷量も増加し、荷動きが活発になってきた。
小売（食肉）	県内におけるアベノミクス効果はいまだ薄く、消費不振が続いている。ガソリンや電気等の値上げの価格転嫁は難しく利益が減少し収益確保が厳しい。
小売（水産物）	海老や鮭等の輸入食品が値上がりし始めた。また、食用油やバターも5月から値上げとなる。

小売（電機製品）	エアコンや冷蔵庫等の省エネ家電は順調に推移。また、LEDや太陽光関連は、伸 長している。
小売（石油）	原油輸入の約9割が中東地域に依存しているため、中国やインド等の石油需要の急 増と産油国等の政情不安により石油価格が上昇している。また、エコカー等の低燃費 車の普及拡大によりガソリンの需要低迷や販売価格の高騰により収益の確保は厳し い。
不動産取引	消費税の増税や住宅ローンの利率上昇等により、住宅探しの来客が日毎に増えてい る。
宿泊業	ゴールデンウィークは、富士山の世界文化遺産登録の勧告もあり富士山方面へ客足 が流れた感がある。甲府方面への周遊を促すよう観光情報を積極的に発信してい きたい。
美容業	季節柄、来店客数が上昇傾向にあるが、固定経費も増加傾向にあり利益確保は難し い。
廃棄物処理（産廃系）	経済全般が低迷しており、業界の事業活動も停滞している。
警備業	公共工事については、工事設計の誘導員の労務単価が昨年の単価で算出してある ため、未だ労務単価の上昇はない。また、大手企業が警備員のが余剰で低料金の受 注をしており、労務単価はさらに低下している。
建設業（総合）	労務単価等の上昇が、受注契約高の上昇に反映されてきた。
建設業（型枠）	6月以降、仕事が立て込んでいる。工事単価は、多少上昇傾向にあるが職人の不足 が懸念される。
建設業（鉄構）	見積り件数は増加傾向にあるが、価格は安値のまま推移している。
運輸（タクシー）	平成21年10月1日に施行された「タクシー適正化・活性化法」に伴い、地域の適正車 輦数が規制強化されている。これに伴い4月から1台減車になったため、昨年に比 べ売上は減少している。アベノミクスの恩恵はなく今後の見通しは、厳しい。
運輸（トラック）	5月は、例年になく荷動きが悪く、特にゴールデンウィーク明けからが悪かった。相変 わらず燃料価格が高止まりしていて経営を圧迫している。